

補足資料1.

2年生「資源増殖」 2学期末試験

志摩にはどのような資源があるか？何が増えれば豊かになるか？という問いに対する解答例

資源は、自然そのものや人の生活の事で、人に関わる食べ物を増やすにはいろいろ考える。果敢的に魚などを養殖しようと思う。でも、魚の中でも絶滅しそうな魚がよいと思う。色々な種類を養殖しようとしても、時間をかかると人手が見えないと思う。それに色々な種類を養殖して魚が少なくなると自然が崩れてしまう。資源は、自然そのものだから、その自然を崩さないようにしなければいけないと思う。だからといって、養殖はかかったり、コストが不安定になってしまったり、漁獲量が不安定になってしまう。魚はとりにくく、日々漁獲量が減ってきている物を育てるべきだと思う。人が生活していくためには、やはり食べ物が必要。でも、環境とかも大切になってくる。自然が崩れてくると、食べ物も減り、次は動物を増殖させていく必要がある。豊かな町にするには、魚や肉は減らす。魚、特産品にしているものを増殖していくのが一番いいと思う。自然を壊さず、一部の魚を加えて...と考える。まじると、自然を崩さないように、少し養殖するのがある。人手は増やさないでいい。減っていくこともなくする。と答えました。

人口が増え続けている今、資源を増やすのは難しいと思う。増やすなら人口への負担が一番良いと思うが非現実的で実行する事はできないから、今ある自然を大切にしたい。必要があると思う。増やすという事で養殖、という手段があるが人が手を加えて...これは自然ではないので、ためたから残っているものを大切にしたいという考えになった。それとも人は増やさないでいい。便利さを求める生物なのでインフラ整備など自然を壊さず、環境はついでにいいと思う。資源を増やすことができるならそれが一番...のほうがいい。それは叶わないと思う。だから増やす事を考えるより、どうすれば残しているのか、残したものを便利にして...するのを考えてみる方がいいと思った。それをつづけて、新しい文化を生み出し、豊かにしていける...と考えた。

・資源増殖とは、資源が足りていないものを、年々、減らしていきながら、その先、ある資源が増殖しないものを、増やしていけばいい。人がいるものと、資源が足りないものを、あると思う。そういうのをその先、とらえて増やしていくことを、目指せばいいと思う。

・そして、足りない資源が、増やして、他の資源と同じくらいにあることを目指せばいいと思う。

・やっぱり、資源というものは、大事だと思う。だから、資源が足りない、困ることを防ぐ必要がある。資源によって、種類がいろいろあると思う。だから、その先「この資源は、足りないからいい」から、「この資源は、いい、よく減らしていいからいい」というのが、できると思う。困るのを、そういう資源も、増殖することを、目指していいと思う。

人と生き物両方が生活しやすい環境を増やすことを目指せば良いと思います。そうするためには、人が生き物の生活しやすい環境を増やせば良いと思います。でもそうすると人が生活しにくくなる。そう防ぐために、養殖の仕方のように、きめられた場所だけを生き物の生活しやすい環境にしたい。自然の力だけで生き物に育てる。そして、生き物が生活しているきめられた場所以外で人がインフラ設備もその生活した、両方が生活しやすい環境になると思います。

資源増殖とは何を増やす → 人が行う。増やす = 人が行うから別に増やすはくても、ある行為をしたら資源増殖になる。しかし、人が手を加えず(野生? 繁殖するほどといった人間活動)と自然に増える。また、自然破壊は増やすことが難しい。

生きものとしての条件 ① 外界と区別できる② 代謝する③ 子孫を残す④ 進化(世代を超えて) ②・③ → 人間が新しい環境を築いて生きものが適応できなければ生きものとして残らず、絶滅してしまう可能性がある。だから環境は壊さるべきではない。

魚や鳥だけではなく食用ではない魚も資源の1つ。それを保護 適度に利用することによって、今も見ていられる。食用ではない魚の生きもの(資源)としての価値が上がり、ツレでも多様性が高くなることにつながると思う。さらに生きもの(資源)としてここから存在できると思う。

だから、何がを増やすかはく、観光資源、文化資源、農業資源などに(漁業)と、でも、生きものによって暮らしやすい環境を保護したり、資源主の生活や文化に上手に利用したりして、人の暮らしと自然のバランスを保つことが資源増殖ということでは、それを目標にしたいと思う。

資源はさまざまな種類があって、いろんな分類に分けられている。今の時点で自分から、資源の種類は大きく分けて3つある。

1. 観光資源  
・ホテルやレジャー活動、観光で訪れる場所である。

2. 天然資源・自然資源  
・簡単に分けて自然にあるもの、水、生物、植物、鉱物などである

3. 歴史的・文化資源  
・太古から現代までの伝統や暮らしのことである。


これらの中で特に増殖したほうがいいと思うのは2の天然資源・自然資源だと自分思う。理由は簡単に言うと絶滅してしまう生き物や植物があるということ。これは国(日本以外)でも大事な資源である。そのため「たまたま数が少なくなっている生き物や植物を増殖すべきである」と考える。

日本ではあるはニュースなどでやっていた天然記念物のオサシロウやオサシロウを増殖したいと思う。自分の学術が「飼っているホトトギス」も毎年2人へってきている。という生き物をまもるために生息場を広げたいと思う。

天然資源・自然資源にかたよらず1の観光資源や2の歴史的・文化資源も同時に増やしたい。自分から考えるには1は場所を増やして、はもって世界中にいろんな伝統とかを広めたい。増やしたいと思う。

これら以外でも人の生活にいい動物や自然も人間が守りや放棄しにくいように、常に一定の状態であるように調整してあげれば、資源豊かな国になると思います。

具体的に目指すもの  
1. 観光の場の増殖  
2. 絶滅寸前の生物・植物の個体と生息場の増殖  
3. 伝統や文化の情報広め  
4. 人間の生活に必要な物を増殖!



養殖で生き物を増やすのではなく、その生き物達の住みやすい環境を増やしていくことだ"と 思っています

人がゴミを捨てることや、カスやゴミの空気汚染、海への有害物質の流し込みなどで生き物には住みにくい環境になって資源が減ってしまいます

また人が乱獲していくのも減らしていかないと、資源が減ってしまいます

人が生活していくうえで必要なことは、生き物が住みやすい環境を壊さないことだ"と 思っています

よってこれはなくしていくべきだ"と 思っています

生き物の住みやすい環境を増やしていけば、自然と生き物も増えて資源が増えるのでは"と 思いました

人の生活と生き物の住みやすい環境とのバランスが大切なんだ"と 思っています

資源とは、自然のものや、そこに住むための生活や文化のことだ、

人が手を加えて増やしていく和(和の生活のインフラ)と、手を加えずに自然でつくられてしまう有用な生物(魚)がある。その例としてエビの養殖がある。エビの養殖方法は、集約養殖と粗放養殖の2つがある。集約養殖は、人的に作る。養殖場で決められた期間に、決められた量のエビを与えている。エビには病気予防の薬が入っている。人が管理している。エビは思うように生きられる。ストレスがたまりやすい。でも、1度にたくさんエビを育てられるというメリットもある。一方粗放養殖は、自然にとても近い方法で養殖する。エビも自然のプランクトンや水草で、薬も使わない。エビにと、環境にと、とても良い方法だ。しかし、集約養殖よりも環境に優しい粗放養殖に全くなしてあげたい。というわけでは無い。理由は粗放養殖は1度にたくさんエビを育てられない。エビの数は適度に、何より粗放養殖の種類が少なくて、育てる量が少なくて、両方メリットあり、デメリットもある。育て方がそれぞれ違うと思う。その時々状況により選ぶべきか"で考えてもいい。つまり、"資源増殖"とは、何かの数を増やせばいいのではなく、より多様性の高い、生物にやさしいインフラを増やすことだ"と思う。

本来和達の身の周りにある資源、インフラを増やすこと、極力自然を破壊したり負担をかけず  
 に現在の世の中の多様性の高さを維持し、より豊かな生活ができることを目指す。また、バランス  
 を保つことの重要。(1.)「増やす」という言葉に異議。豊かさを増やすまでの過程に「維持」「改善」  
 などの言葉も必要。根本的理由→生活排水が海に流さない、などある外そうすると水も理由に死んでい  
 る海洋生物も生きている分水産物資源の漁獲量が増えるので豊かさを自然に生まれている。汚い  
 土質にさびりつけても養分はいいから。又、人の生活に関わる多様性の高さを維持する事大切。  
 (2.) 一般的に養殖→集約養殖が自然破壊や残留など問題も起きている。そこで自然を駆逐する  
 粗放養殖が行われている。自然を利用する自然破壊など問題は遠くないが、仮に粗放養殖だけと  
 なるとバランスが崩れ、人の生活に影響が出る。例えば無酸素量、水質が不安定のため外食店や食品を和  
 食で調理しにくい。自然が人の生活とバランスが崩れてしまっている。それは豊かとは言えない。  
 自然は人の生活に関わるインフラのバランスを保つことも豊かさを保つための重要な役割に比べて現在は  
 の時代には無視されたり外食店の生活を支えている。例えばレストラン。そしてレストランは様々なメニュー  
 豊富であり料理が注目を浴びる。他にも職業選択の自由が、多様性に優れているし、この多様性の高さを  
 は現在の暮らしの豊かさを示している。人の暮らしがレベルアップするに比例して自然は尊重する必要がある  
 は豊か。より豊かさを求めるにあたって、粗放養殖は自然に優る比率の良養殖環境を築くのも一利ある。

私が増やすべきと考えたのは環境です。  
 知識がなければ何もできないと思います。私たちによく理解ができていない人間  
 はみんなこんなことかと思いつかなく現実的な提案が難しいです。これから  
 もし資源としての何かが消えていくとしたら中々九生きている人間が関わっている  
 と思います。それなのに、多くの人が海に意識が向いていないように感じました(提  
 案も通して)。だから過去の「自然が豊かだった」時代と現在を比べての差は  
 分り、知るべきことを知らなすぎていると思います。もっと海に限らず身近な自  
 然についての関心を高めなければいけないと思います。  
 ・大学、専門学校など学ぶ場所を増やす。  
 ・小中学校など漁業関係者の講演会や、漁業体験をさせる。  
 この二つ以外にもやれることはもっと多くあると思います。「多様性の高い豊  
 かな自然」を目指すなら、取りまく私たち人間も含めた環境に注目を  
 払うべきだと思います。今はまだ「有用水産物」という言葉を知らないまま、それを  
 「資源」だと思。という人が多々います。人間の環境が変われば少なから  
 ず自然の環境にも影響すると思います。資源というものを意識できる機会が  
 増えればいいと思います。

1) 自然は人間の手が加われば、自然では行かないので、私は何も増殖しなくて  
 2) 良いと思う。実際、我々が漁業を40年以上前から始めているにも関わらず、何か  
 3) 達成できている。達成できているものは自然も生き物が豊かになっているはずだ。  
 4) 増殖する。と聞く。養殖」と思いつく人がほとんどだろう。一般に養殖は  
 5) 集約養殖と粗放養殖がある。粗放養殖を客観的に見ると、人間の手が加わって  
 6) いかに見ると粗放養殖の地は元々、人間が埋め立てたものなので、自然は  
 7) 行かない。では、何も増殖しなくて良いと思うのなら、「今は豊か」と疑問が仕舞。  
 8) 私は、豊かだと思う。でも、僕がいない物は復元されている。不満は僕から。豊かでは  
 9) 僕らの意見を人に伝えていっていいからいい。これ以上豊かを増やしていい  
 10) 生き物の残骸などで環境汚染に気を配る。  
 11) 昔は豊かだったが正しい。例としてイガイは突然姿を消した。あれだけ深く  
 12) 人間に関わってきたのに、今はイガイ自体知らない人が多々。もしイガイが今も  
 13) 存続しているなら、イガイがいないことで豊かではないと言える。今は存在が  
 14) 薄れているので最低でも、知りつつ私に比べて、イガイがいても豊かと言える。  
 15) 生き物の住みやすい環境をつくるための案もあるから、生き物に優しい住みやすい  
 (裏)

環境をつくる。人間が住みやすいから意味が深い。  
 人間は生き物と違い、環境を作り変えることができる。  
 人間が不便にするような環境をつくる可能性は誰が考えれば  
 低い。  
 今の状態で、現時点では一定のバランスに保たれているのだから、  
 無理に資源を増やさなくても良い。私は思う。

